

サクラマス 水揚げ

学生ベンチャー のスマルト 宮野浦沖で海面養殖

生存率、成長率も好感触

延岡市北浦町

宮崎大学発の学生ベンチャー「Smolt（スマルト）」上野賢代表が手掛ける養殖魚「サクラマス」の今

シーズンの海面養殖が終わり、17日に延岡市北浦町の宮野浦港に水揚げされた。今シーズンはデータを集める試

験的な養殖との位置づけで、上野代表は「生存率も成長率も感触がいい」と手応え。サクラマスは五ヶ瀬町の淡

水いけすに戻し、出荷を待つ。スマルトが手掛けるサクラマスは、五ヶ瀬町の清流で育ったヤマ

メを延岡の海で大型化させたもの。今シーズンは昨年12月に宮野浦港沖のいけすに1900匹ほどのヤマメ約20

00匹を入れた。それから約4カ月。水揚げしたサクラマスは、1ヶ月前後まで成長したものが例年よりも多く、結果は上々。上野代表は「感触はいい。これから品質についても細かく検証したい」と話した。

延岡の海でサクラマスを育てる取り組みは、同大学農学部の内田勝久教授が2012年から始め、養殖技術を研究。これまでの研究成果を基盤に、内田研究室の学生で大学院生の上野代表が昨年4月にスマルトを設立した。



海面養殖が終わり船から活魚車に移されるサクラマス（17日、延岡市北浦町の宮野浦港）

21世紀の顔 募集

お子さんの顔写真を募集しています。対象は、乳幼児から小学生まで。

子供の生年月日と名前（ふりがな）、保護者の名前、住所、続柄、電話番号を明記し郵送、または本社に持参してください。

写真は返却しません。連絡先が不明の場合は掲載できません。

〈宛先〉

〒882-8577

延岡市大貫町2丁目1302番地

夕刊デイリー新聞社「21世紀の顔」係

昨年4月に設立したスマルトにとっては来シーズンから本格スタート。今回水揚げした分は5月以降に順次出荷するほか、くん製などの加工品にする。また、今秋には成長したサクラマスから希少価値の高い黄金色のイクラを採取し、10月ごろから販売を始める計画という。